

# 夏ギャルの誘惑

～実家に帰ったら姪っ子がセックスさせてとせがんできた～

2021 ないちんげーる

## //トラック1

「あっ、お義兄さん。ほんとに帰ってきてたんだ」

「あれ？ わかんない？ あたしだよ、姪のはすみ。まさか、こんな可愛い姪を忘れちゃうわけないよね？」

「ふふつ、ほんとかな…。まあ、いつか。せっかく久しぶりに会ったんだし、ちょっとお話ししようよ。隣座るね」

//(ヒロインが隣に座って、一緒に雑談するシーン)

「ん、っしょ…」

「お母さんから聞いたよ、お義兄さんが近々帰ってくるって…ほんとだったんだね」

「…それじゃ、いつものやつ…。お、み、や、げ、あるんでしょ？ あるよねえ？」

「え～ないの～、いつも楽しみにしてたのに…」

「そっか、そういえばお義兄さん結婚したんだっけ…」

「それなら忙しくてお土産買えないのも仕方ないよね…」

「そうだ！ それじゃあさ、お土産の代わりに新婚生活の感想聞かせてよ。新婚なんだから、ラブラブなんでしょ？」

「ほらやっぱり…！ 聴いてるこっちが恥ずかしくなるくらいラブラブそうじゃん。奥さんのこと大好き？ 愛してる？」

「あはは、ぞっこんじゃん…って、そういえば奥さんは？ 一緒に帰ってきてるんじゃないの？」

「へ～、事情があって後からこっち来るんだね」

「じゃあ今はお義兄さんだけなんだ～。それならもうちょっと話相手になってよ。ちょうど聞いて欲しいこともあるし」

「実はさ～、最近まで付き合ってた彼氏と別れちゃって…」

「こうゆう話はむしろ親とかよりお義兄さんくらいの立場の人の方が話しやすいの。いいからいいから。…それで、最近寂しいっていうか、溜まっちゃっててさ…」

「何って…」

「性欲だよ、せ、い、よ、く…。お義兄さんはどお？ 溜まってない？」

「ふふつ、冗談だよ。うそそそ…そんなにムキになっちゃって、本気にしちゃった？」

「そうだよね。お義兄さんには大好きな奥さんがいるもんね」

「…あれ？ お義兄さんなんかめっちゃ汗かいてない？ …暑いなら中、入ろつ。扇風機あるから涼しいよ」

//(室内に移動して涼みながら雑談を続けるシーン)

「中入ったら、冷たい麦茶出してあげるね」

「ほら、お義兄さん座って？」

「あたしも隣座るね」

「もしかしてまだちょっと疑ってる？」

「もうさつきみたいなことはしないよお。だいじょーぶだいじょーぶ」

「お義兄さんてば警戒心強すぎ…。麦茶注いであげるから、飲んで落ち着こ？」

「はい」

「…んつ、んぐ、んぐつ、ぐ…つはあ…つ」

「あたしも喉乾いてたから、つい沢山飲んじゃった…」

「お義兄さんも負けじとすごい飲みっぴりだね。そんなに暑かった？」

「あ、そういえば、扇風機着けてなかったね」

「さて、落ち着いたところでお義兄さんにしつも～ん。正直に答えてね」

「…今、ちょっと興奮してるでしょ？」

「質問に質問で返しちゃダメだよ…？ 特別に教えてあげるけど、さつき冗談って言ったのはお義兄さんをからかうための嘘…ふふつ」

「それともう一つ…」

「あたしは今すっごく興奮してるよ…どお？ お義兄さん、しない？」

「とぼけちゃって、やだなあ…ほんとは分かってるんでしょ？」

「えっちなことだって…。  
ね？ いいじゃん。姪だけど、若くて可愛いJKのおまんこタダで使えるんだよ？  
嬉しくない？」

「まーだ奥さんが、とか言ってる……。

あたしとはお互い気持ち良くなるためだけの割り切った関係。  
だから～浮気になんてならないよ」

「それに、あたしはお義兄さんに何の恋愛感情も持っていないし、ただ溜まった性欲発散したいだけ」

「あれ？ それともお義兄さんはあたしのこと本気で好きなの？  
ふふつ、そんなわけないよね？」

「もお、お義兄さん固いなあ…。  
じゃあさ、ちゅーだけっ。ちゅーだけならいいでしょ、ねっ？」

//(キスから始まり、やがてヒロインが押し倒しディープキスに発展するシーン)

「ふふつ、やっと素直になってくれた。ここまで折れたんだから、た～っぷりちゅー

させてよね…っ！ ほら、こっち向いて？」

「んちゅ、ちゅつ、ちゅつ、ちゅう、ちゅつ…！ ちゅ、ちゅつ、ちゅ、ちゅう、  
ちゅつ…！ ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅ…っ！」

「久しぶりだからちゅーだけでもすっごく興奮しちゃう…っ」

「んちゅうつ、ちゅうう、ちゅう、ちゅうう、ちゅううつ…！ ちゅう、ちゅうう、  
ちゅうう、ちゅう、ちゅうつ…！ ちゅう、ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅう…っ！ ちゅうつ、ちゅう、  
ちゅ、ちゅう、ちゅうう、ちゅうつ！」

「…あたし、ちゅー大好きなんだあ…だから～、もっとしよっ？」

「ちゅつ、ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅ、ちゅうう…っ！ ちゅ、ちゅう、ちゅう、ちゅ、ちゅうう…っ、  
ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅう…ちゅうう、ちゅう、  
ちゅううつ…ちゅつ、ちゅう、ちゅう、ちゅう…っ！」

「…つはあ…っ、お義兄さん、ちゅー上手いね…ちゅーだけでこんなに気持ちいの、  
お義兄さんが初めて…」

「ちゅつ、ちゅ、ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、ちゅ、ちゅう、ちゅう、  
ちゅう、ちゅうう…っ、ちゅう、ちゅう、ちゅうう、ちゅうう…」

「…ん、ちゅ、ちゅつ、んはあ、はあ、んう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、んつ、んう、  
ちゅう、ちゅう…っ、ん、ちゅ、ちゅう…。…はあ、もっと、もっと…っ」

「ふふつ、ごめんね…つい押し倒しちゃった…っ。でもちゃんとちゅーだけで我慢する  
から、はやく続きしよっ…？」

「…ん、ちゅ、ちゅつ、んはあ、はあ、んう、ちゅ、ちゅう、ちゅ、んつ、んう、  
ちゅう、ちゅう…っ、ん、ちゅ、ちゅう…んつ、ちゅつ、ちゅ、ちゅう、ちゅう、  
ちゅ、ちゅう…っ、  
はあ、ん…」

「おにいはん、ひた…ちゅう、ちゅ、ちゅう…ほら、ちゅ、ちゅう、ひた、入れて？ ちゅ、ちゅう、  
ちゅう、ちゅうう…っ」

「…んう、れろお…っ、れるれろお、れろれろっ、れるれるれるれろ…れろれるう、  
れろれるれろれろお…っ、れろ、れろれろれろお…つぶあ…」

「え～ディープキスはダメって…舌同士のちゅーでもちゅーはちゅーだよ？ あたしが  
舌入れてって言ったら入れてくれたんだから」

「いいってことじゃないの？ お義兄さん？」

「そんなこと言って…んちゅ、ちゅ、んれろお…っ、れろれるう、れろれろれうれろお… まんざひや  
へもないくへに…れろれるう、れるれろれろお…っ」

「…んれろお…っ、れるれろお、んつ、はあ、れろれろおつ、れるれるれるれろ…  
れろれるう…っ、はあつ、んつ、れろれるつ、れろれろお…っ、ん、んう、  
れるれろおつ…つぶあ…」

「…あれ？ お義兄さん、乳首勃ってんじゃん。ちゅーしてただけなのにおかしいな～」

「ほんとはこうやって…」

「ちゅーしながら、んちゅ、ちゅう、ちゅう…乳首弄られたかったんでしょ。  
抵抗するどころか、身体びくびく反応しちゃってるよ？ 図星なんだねえ。」

ふふつ、もっとしてあげるからね」

「...んれろお...つ、れるれろお、んうつ、はあつ、れろれろおつ、れるれるれるれろつ... れろれるう...つ、はあつ、んつ、んう、れろれるつ、れろれろお...つ、ん、んう、  
れるれるれるれう、れろれろれるれろお...つ、はあ、はあつ、んんう、れるれろおつ、 れるれろお、  
れるれう、れろれろお...つぶあ...」

「...ちゅーするだけだったはずなのに、べろちゅーしながら乳首弄られて、すっかり  
感じ ちゃってるお義兄さん情けな~い。  
快楽には勝てないんだね~。ほら、ちんぽもすっかり勃起しちゃって、さっきから  
あたしの足に当たってるよ？ やっぱり性欲溜まってたんじやん」

「ねえ、どうする？ しちゃう？ えつ、ち...」

//(ヒロインがコンドームを着けてあげ、騎乗位でエッチするシーン ヒロイン優位)

「ちんぽこんなにしてまだめらってんの？」

「もう、お義兄さんはしようがないんだからあ...」

「うわっ、もうこんなにガチガチじゃん。こんなにしてよく奥さんを裏切れないとか  
言えたよね。  
奥さんのことなんか考えなくていいのに。今は自分が気持ち良くなることだけ考えよ？  
だからさ、一回だけ...！ ちゃんとゴムも着けるし、ねつ？ しょっ？」

「ふふつ、やっと気持ち割り切れたみたいだね。それじゃ、ゴム着けるから  
じつとしてて」

「あ、これ？ こういう時のためにいつも持ってるんだ~」

「いつえっちするかなんてさ、自分じゃ分かんないじゃん？」

「ビッチって、ちょっとひどくない？ これがなかったら、お義兄さんあたしと生でするところだったんだ  
よ？ むしろ褒めて欲しいなあ」

「まあ、あたしは生でも全然良かったけど...ふふつ。  
これでよしつ、と...サイズ不安だったけど案外ぴったりだったね」

「じゃあ、このままあたしが上になって入れちゃうね...つ」

「...はあ...つ、ああつ、す、すごおつ...！ はあ、はあつ、ああつ、んつ、あつ、  
あん...つ！ はあ、はあつ...お義兄さんのおつきなちんぽ、全部入っちゃったあ...」

「あつ、はあつ、はあつ、あつあつ、ああつ、あん...あはあつ、はあ、ああ、  
ああん...つ、やつ、やあ、ああ、あつあつ、ああつ...！ や、やっぱあ...つ、  
お義兄さんのちんぽめっちゃ好きかもつ...」

「あつ、はあつ、はあつ、んん、んうつ、はあつ、あつあつ！ ああつ、あんつ...あつ、 はあつ、んはあ、  
ああ、んあつ、ああん...つ、やつ、んつ...！ やあ、はつ、ああつ、 あつあつ、ああつ、あん...！  
んう、んん...つ、はあつ、ああ、んあつ...！  
動いてるだけで奥に響いて...つ、こんなの初めてっ...大人ちんぽすごお...」

「あつ、はあつ、はあんつ、んん、んう...つ、はあつ、あつあつ！ ああつ、あつ、 あつ、あんつ...！  
あつ、はあつ、んつ、はあ、ああつ、んあつ、ああ...んつ、  
やつ、んんつ...！ やあ、はつ、ああつ、あつあつ、ああつ、あん...つ！」

「はあ、はあつ、気持ちい...つ、はあ、ああつ、んうつ、きもちいよお...つ！ ... はあつ、はあ、はあ  
...どお？ 奥さん以外の人とエッチした感想はあ？ 気持ちい？」

「もお、お義兄さんは素直じゃないなあ...その見栄、いつまで続くのか楽しみ...つ」

「あつ、あんつ！ んあつ、ああつ、あつ、あつ...！ はあつ、はあつ、んん、  
んうつ...！ はあつ、んはあ、はあつ、あつあつ！ んあつ、あつ、んうつ、  
ああつ、はあつ、はあつ、ああんつ...！」

「はあ、んう、はあ、ん...つ、お、お義兄さんちょ～もつたないよお...こんな立派な  
ちんぽ持ってるくせに奥さんとしかエッチしないなんて...」

「まだそんなこと言ってるんだあ...はあ、あんつ、あつ、んつ...。  
奥さんのこと思ってるのはいいことだけど、お義兄さん今、奥さん以外の人...それも  
姪のあたしとえっちしちゃってるよ？ ふふつ...。さすがにそれじゃあ説得力ないん じやないか  
なあ...つ」

「...ん、んんう、はあ、はあつ...いつまでも奥さんのこと考えてたら気持ち良くなる  
ものもならないよ？ だから～...」

「んちゅつ...！  
...今は気持ち良くなることだけ考えよ？」

「あつあつ、はあつ、ああつ、あんつ！ んつ、んんつ、んあつ、はあつ、ああつ、 んあつ、ああ...  
つ！ んつ、やあつ、あつ、ああつ！ んん、はあつ、はあつ、んう、 あつあつ、ああん...つ！ ああ、  
はあつ、ああつ、あつあつ、ああん、んあ、あつ、  
あん...つ！ ...はあ、はあ...つ、お義兄さん、息荒いし変な声てるよ？  
どうしてかな～？」

「ほら、やっぱり気持ちいんじゃん...最初から素直に認めれば良かったのに...。  
でも...やっと素直になってくれたお義兄さんには、ご褒美あげなくちゃね」

「あつあつ、はあつ、ああつ、あうつ、あつ、あんつ！ んつ、んあつ、あつ、ああつ、はあつ、はあつ、  
んつ、んう...つ！ あつ、あうつ、あうつ、んあつ、ああつ、あつあつ！ はあつ、はあつ...」

「はあつ、ああつ、あつ...どお？ さっきよりも激しいの...気持ちいでしょ？ あつ、はあつ、ああん...  
つ、あつ、あつ！ おつ、お義兄さん...つ、手、繋いで？」

「お義兄さん、恋人繋ぎなんて大胆だねえ...あたしはこっちの方が好きだからいいけど、お義兄さ  
んはいいの？」

「ふ～ん、吹っ切れちゃったんだ...あたしたち恋人同士でも、好き同士でもない、  
エッチするだけの関係なのに恋人繋ぎしながらエッチしちゃってるねえ...これって  
すっごく興奮しない？」

//(フィニッシュシーン)

「ふふつ、気持ちよすぎて答える余裕なんてないか...はあつ、んんう...つ、あああ...つ！ ちんぽ、  
さっきよりもおつきくなつて中で震えてる...。ねえ...？ んう、はあ、 はあつ、ああつ、ああ...つ、  
イ、イきたいんじょ？ いいよ...このまま出して...」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！ あつ  
あつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつあつ...！ はあつ、 はあつ、んつ、んう  
...つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、  
はあつ、ああんつ、はあん...つ！」

「はあつ、はあつ、ああつ、あつ！ あつ！ ああ...んつ...！ 出して...つ！」

「はあつ、ああつ、あんうつ…！ んう、んんう…つ、このまま一緒に気持ち良くなろつ？」

「はあつはあつ、あつあつああ…つ！ んつ、んうつ、はあつ、ああつ、あつあつ！ はあつ、あうつ、んあつ、あんつ！ あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、んう…つ、あん、んんうつ、あつああ…つ！ はあつはあつ、んつ、んう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、あつあつああつ！」

「はあつはあつ、ああああつ…つ！ あつあつああつ…！！」

「…つはあつ、はあ、はあ…つ。  
…出てる…つ。ゴム越しでもはつきり分かるくらい出てる…」

「…はあ～～、お義兄さんのちんぽ、さいつ、こうに気持ち良かったあ…つ！  
今まで一番気持ち良かったかも…けど、残念ながらあたしをイかせることは出来なかったね、ふふつ」

「う～ん、何人とエッチしてきたかなあ…分かんないや！  
そんなのいちいち数えてないし」

「うわっ、すんごい出てる…つ。せ一しの量も過去最高更新してるよ、これ…。  
もしかしてお義兄さん、奥さんとご無沙汰だった？」

「へ～、お義兄さん、エッチできないときでもオナニーしないんだあ。  
そんな奥さん思いなのにあたしとエッチしちゃったねつ…！  
しばらくこっちいるんでしょ。溜まってたらまた声かけてよねつ？」

## //トラック2

//(縁側でくつろいでいるヒロインが後ろから忍び足で近付いて抱き着かれ、そのまま誘惑されるシーン)

「おに～さん、ふ～っ…」

「ふふっ、驚いた？ 縁側で呑気にたそがれてたから声かけちゃった。なにしてんの？」

「もお、そんなに露骨に嫌がらなくてもいいじゃ～ん。ちょっと後ろから抱き着いてるだけなのに…。」

「お義兄さん、あの日以来あたしのことわざと避けてない？ もしかして気まずいとか、奥さんに悪いことしちゃったなって思ってる？」

「そっか～、お義兄さんてほんとにまじめなんだね～」

「えらい、えらい…っ。」

「…まあ、もう既にあたしとエッチしちゃってるから後悔しても遅いんだけどね、あははっ…！」

「もお、そんな怒んないでよ。ほんとのこと言ってるだけじゃん」

「え～、離れろってひどくな～い？ こんなに可愛いJKの姪が抱き着いてるのに…。  
それにこう見えてもあたし、結構いい身体してると思わない？ おっぱいとか  
大きいし」

「ほらほら～…！」

「胸当たってるって…わざと当てるんだよ。お義兄さんてば鈍感だな～」

(耳舐めから徐々にいやらしい雰囲気になり、全身リップに移行するシーン)

「どう？ 興奮してきた？」

「なあんだ、興奮してないんだ…そろそろお義兄さん溜まってるかな～と思つたんだけどな」

「…ねえ？ ほんとに興奮してない？」

「ほんとのほんと…？」

「そっか～、じゃあ…っ」

「れろお…っ」

「ひやっ…！ 急に大きい声出さないでよお、びっくりしちゃったじゃん…。  
せっかく耳綺麗にしてあげようと思ったのに」

「どうしてそんなこと言うの～？ お義兄さんつれないなあ」

「…もしかして耳舐められたら興奮しちゃう変態さん…？ れろれろお…っ」

「ふ～ん、興奮しないんだあ。それならもっとしていいよね？」

「れろお…っ、れっろお、れろれるれろお…っ、れろおつ、れろつ、れろお…っ。  
れるつ、れろれろお、れろ、れるれろつ、れろれろおつ…。  
もお…！ お義兄さん動いちゃだ～め…っ！ 耳綺麗にしてあげてるんだからじつと

してて」

「れろっ、れろお…っ、れろおっ、れろっ、れろれろお…っ、れるれろお…っ、れろお…っ、れろっ、れろお…っ。れろれるう、れるれうれろお…っ、れろれろお、れろお、れろお、れろれるう…っ、れるれろっ、れるれろれろお…っ…」

「んっ、れろお…っ、んう、んっ、れろおっ、れろれるれろお…っ、はあ、んれろお…っ、れろっ、んう、れろお…っ。れるっ、ん、れるれろれろお、はあ、んんう…っ、れろっ、れるれろっ、れるれろれろお…っ…」

「耳びくびくしててよ？ 舐められて嬉しいのかな？」

「んう、れろお…っ、んう、れろおっ、れろれるう…っ！ れろお…っ、れるれるれろお…はあ、んっ、れろお…っ、れろお…っ、んう、れろお…っ。れるう、ん、れるう、れろれろお…っ、はあ、んんう…っ、れろお…っ、れるれろお…っ、れるれるう、れうれれろお…っ…」

「心配しなくてちや～んとこっちもやってあげるからね～。ふう―――」

「頼んでないって…まだそんなこと言ってる…ほんとは期待してたんでしょ？」

「んれろお…っ、れろお…っ、れうれるれろお…っ、れろっ、れろっ、れろお…っ、れるれうれろお…っ…れろお…っ、れろっ、れろお…っ。れろれるれるう…っ、れるれうう…っ、れうれる…っ、れるれろお…っ、れろれろお…っ、れろれろれろお…っ…。もしかしてお義兄さん、こうやって耳舐められるの好き？」

「はぐらかしちゃって可愛い…っ」

「んっ、れろお…っ、んう、んっ、れろれろお…っ、れろっ、れるう、れろお…っ、はあ、んう、んれろお…っ、れろっ、れろお…っ、れろ、はあん…っ、んう、れろお…っ、れろう…っ、んっ、れるう、れるれう…っ、れろっ、れろお…っ、れろれろお…っ、はあ、んんう…っ、れろっ、れるれろ…っ、れるれろれろお…っ…」

「んう…っ、れろお…っ！ んう、はあ、れろお…っ、れろれるう…っ！ れろお…っ、れるれるう、れう、れるう、れろお…っ、れろお…っ！ れろお…はあ、んっ、れろお…っ、れろお…っ、はあんう、れろお…っ。れるう…っ、んっ、れうれるう、れろれろお…っ！ はあ、んう…っ、れうれるれろお…っ、れるれろお…っ、ん、んう、れろれるれうう…っ、れろれろれるれるう…！ れうれろれろお…っ…。あれ？ お義兄さん、汗かいてな～い？ まさか、興奮して出た汗なわけないよねえ？」

「なあんだ、暑いからかいた汗かあ…あたしってば、勘違いしちゃった。  
…それならさ、このままあたしが全身綺麗にしてあげよっか？ お義兄さんも汗かいてたら気持ち悪いでしょ？」

「遠慮なんかしなくていいから、ほら、あっちいこ…っ！」

「お義兄さん、服脱いでここに寝てくれる？」

「脱ぐのは上だけだよ、お義兄さん。もしかしてなんか勘違いしちゃった？  
そんなわけないよね」

「お義兄さん汗ぐつしょりじやん、結構暑がり？ それとも…興奮してたの必死に我慢してたからかな？  
…まあ、この際どっちでもいいけど、ふふっ…」

「んっ、しょ…。  
こうしてお義兄さんの上に乗るの、この前振りだねっ…この前のことちょっと思い出しちゃった。…  
さて、と…どこから綺麗にしようか…お義兄さんはどこからして欲しいとかある？」

「どこでもいいだなんてちょっと困っちゃうなあ…耳はさっきやったし～」

「うーん…。

あっ、それじゃつ、首からやっていこうかな」

「れろお…つ、れろつ、れろれろれろお…つ、れろつ、れろつ、れろお…つ。れろつ、れろれろお、れろつ、れるれろつ、れろれろおつ…」

「お義兄さんがどこでもいいって言ったんじやん。今更文句言ったってもう遅いよ」

「れろつ、れろつ…おにいさんのあせえ、れろお…つ、ほんのりしょっぱくてえ、れろつ、れろお、美味しい…つ。

…次は～、もう少し下に行って…」

「このたくましい胸板、綺麗にしてあげる」

「れろ…つ、れろつ、れろれろ、れろお…つ、れろつ、れるつ、れろつ、れろお…つ。れろつれる、れろ、れろつ、れろれろお、れろつ、れろお、れる、れるう、れろつ、れるれろおつ、れろれろおつ…。こうして見てみると、お義兄さんって結構たくましい身体してるよね」

「れろお…つ、れろつ、れろれろお、れろお…つ、れろつ、れろれろつ、れろお…つ。れるれろつ、れうれろお、れろつ、れろつ、れろお、れるれろつ、れろれろおつ…」

「おにいさん、んつ、れろつ、れろお…くすぐったそうにしてる…つ、まあ、んれろつ、れろつ、当然だよねえろおつ、れろお、れろつ、普通こんなところお、れろつ、れろつ、舐められないもん。…ふふつ、今度は…」

「れろ…つ、れろおつ、れろれろつ、れろお…つ、れる、れう、れろつ、れろお、れろお…つ。れろつ、れろれろお、れろつ、れるつ、れうう、れろつ、れる、れろつ、れるれろおつ…。どうしたのお義兄さん？ さっきよりもだいぶ反応大げさじゃない？」

「もしかしてえろつ、れろつ、れろお…つ、乳首弱い？ ふふつ…」

「さっきから乳首勃ってのによくそんなこと言えたね～。ちょっと舐めただけなのに…すっかり感じちゃってんじやん」

「あたしのせいって…あたしはただ、お義兄さんの身体を舐めて綺麗にしてあげてるだけだよ？ こうやって…」

「れろお…つ、れろおつ、れろれろつ、ずちゅうううつ、ちゅふ…れろお…つ、れるう、れろおつ、れろお、れろれろお、じゅちゅうううつ、ふあつ、れろつ、れろお、れろれろお、ずちゅうう…つ、ふう、れろおつ、れるうつ、れうう、れろつ、ずちゅうううつ、ちゅふう…つ、れろお、れる、れろつ、れるれろおつ…。あれ～？ お義兄さん、乳首だけじゃなくこっちも勃起してな～い？ なんでこんなにおつきくなってるんだろ～？ なんか、汗と違うのも出てきてるし…ふふつ」

「ズボンにシミ、出来てるよ？ まさかバレないと思ったの？ これ、我慢汁だよ ねえ？」

「ねえ、お義兄さん、すっきりしたいでしょ？」

//(ヒロインがフェラするシーン)

「したいよね～？  
じゃあ…つ」

「あむつ…！」

「ん、ちゅちゅちゅむう…つ、れろれろお…つ、ちゅふ、ちゅぱ、ちゅむ、ちゅむう…  
れろれろれろお…れろちゅ、ちゅむ、ちゅぱあ…つ、れろれろお、れろれちゅつ、  
ちゅふ、ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお…つ、れろれろれろお、れるれろれろれろつ、 ちゅ、ちゅむ、  
ちゅふ、つちゅぱあ…れろつ、れろつ、れうれろれろ…ちゅれろお、  
れろれろお…つ、ふはあ…」

「…お義兄さん、今更何言ってんの？ 脱がしてるときに抵抗しなかったんだから、  
実は口でされるの期待してたんでしょ？ それに、これならセックスじゃないから  
平気だよ。だからじつとして？」

「ん、ちゅちゅちゅむう…つ、れろれろお…つ、れろちゅふ、ちゅぱつ、ちゅむ、  
ちゅむう…れろれろれろお…れろちゅ、ちゅれろ、ちゅむつ、れろれろお、ちゅむ、 ちゅぱあ…  
つ、れろれろおつ、れろれちゅつ、ちゅふつ、れろれろれろう…つ、  
ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお…つ、れろれろれろお、れるれろれろれろつ、  
ちゅ、ちゅむつ、ちゅふ、つちゅぱあつ…！  
どう？ 気持ちいいでしょ？ あたし、こう見えてフェラ得意なんだ～」

「…ん、ずちゅちゅむう…つ、れろれろお…つ、ちゅふ、ちゅぱ、ちゅむ、ちゅむう…  
れろれろれろおつ…れろちゅ、ちゅむ、ちゅむつ、ちゅぱあ…つ、れろれろお、れろ  
れるう、れろれろおつ、ちゅつ、ちゅむ、ちゅ、ちゅぱ…つ、れるれちゅつ、ちゅふ、 ちゅむ、ちゅ  
むう…つ、ちゅれろお…つ、れろれろれろお、れるれろれろれろつ、 ちゅ、ちゅむつ、ちゅふう、つ  
ちゅぱあ…れろつ、れろつ、れうれろれろ…  
ちゅれろお、れろれろお…つ、ふはあ…。  
段々反応良くなってきたね。ちんぽもお義兄さんも…つ」

「…あむ…つ、ちゅふつ、ちゅむふふう…つ、ちゅふつ、ちゅふつ、ちゅむつ、  
じゅちゅつ…！ じゅちゅつ、じゅむつ、じゅむう、じゅむ、じゅむつ…ちゅふ、  
じゅふつ、じゅふ、じゅふう…つ、じゅふつ、じゅふ、じゅふつじゅふつ…！  
じゅむう、じゅむつ、じゅつふう…つ！  
先っぽからどんどん我慢汁溢れてくるつ…すごつ…」

「…あむ…つ、ちゅふつ、ちゅむふふう…つ、ちゅふう、ちゅふつ、ちゅむうつ、  
じゅちゅううつ…！ じゅちゅつ、じゅむうう、ちゅむうう、じゅむつ、  
じゅむうつ…じゅふ、じゅふつ、じゅふ、じゅふう…つ！ じゅふうつ、  
じゅふつ、じゅふつじゅふう…！ じゅむう、じゅむつ、じゅつむうう…つ！」

「…ちゅむ、ちゅむ、ちゅむつ…ちゅろちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろちゅろ… ちろちろちゅ  
ろちゅろちゅろ、ちろちろちゅろちゅろちゅろ…」

「先っぽ責めた途端変な声出して…お義兄さん先っぽ弱いんだ～、いいこと  
知っちゃった…つ！ もっとしてあげるね」

「…んつ、れろれろお…つ、れろれろれろれろ、れろれるれろれろ、れろれろつ、  
れろれろれろれろお、れろれろれろれろれろお…つ、れろれるれろれろおつ…。  
ほら、もっと声聞かせて…？」

「…あんつ、ちゅろちろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろちゅろちゅろ、ちろちろちゅろちゅろ、ちろ、  
ちろ、ちろ、ちろ…れろつ、れろお、れろれろれろれろ…つ、れろつ、れろれろ  
れろつ、れろれろれろれろれろお…れろつ、れろお、れろ、れろれろつ、  
れろれろおつ…！  
ふふつ…お義兄さん、フェラしてるだけなのに腰浮いちゃってんじゃん。…そうだ…  
たまたまも一緒に刺激してあげる…！ その方がもっと気持ちいいでしょ？」

「…あむ…つ、ちゅふつ、ちゅむふふう…つ、ちゅふつ、ちゅふつ、ちゅむつ、

じゅちゅつ…！ じゅちゅつ、じゅむつ、じゅむうつ、じゅむつ、じゅむつ…！  
ちゅふつ、じゅふうつ、じゅふう、じゅふう…つ、じゅふつ、じゅふ、じゅふつ  
じゅふつ…！ じゅむう、じゅむつ、ずむう、ずちゅつ、じゅつぶうう…つ！  
たくさん揉んであげるから、こゆ～いせ一したくさん作るんだぞ～」

「…あむ…つ、ちゅふつ、ちゅむふふう…つ、ちゅふつ、ちゅふつ、ちゅむつ、  
じゅちゅつ…！ じゅちゅつ、じゅむつ、じゅむう、じゅむ、じゅむつ…ちゅふ、  
じゅふつ、じゅふ、じゅふう…つ、じゅふつ、じゅふ、じゅふつじゅふつ…！  
じゅむう、じゅむつ、じゅつぶうう…つ！」

「ちゅふ、ちゅむつ、ちゅむつ、んんう…つ、ひいんぽびゅくびゅくしてひた…イキ  
ひよう？」

//(フィニッシュシーン)

「ちゅふ、ちゅふう、ちゅむつちゅむつ…！ だひて…？ ちゅちゅむうう…つ、  
ちゅむう、ちゅむうつ、このままくひでれんぶ受けひよめるから…つ！」

「じゅふつ、じゅむつ！ ちゅむつじゅむつじゅむつ…！ ちゅふつ、ちゅふうつ、  
じゅつぶつじゅつぶうつ！ じゅっぱつ、じゅっぱ  
じゅっぱじゅっぱ…つ！」

「じゅふううつ、じゅむううつ！ ちゅむつじゅむつじゅむううう…！ ちゅふつ、  
じゅむうう、じゅむうう…つ！ ちゅふうつ、じゅつぶつ  
じゅふつ、じゅつぶつじゅつぶうつ！ じゅむつ、じゅむうう、じゅむうう、  
じゅむうううう…つ！」

「んつ、んうつ…！ ん、んんつ、んう、ん～～～～～つ…！」

「こく、こく、こくっ、こく…つ、ん、んう、んぐっ…。  
はあ、はあ…お義兄さんてば出しすぎ…口に入りきらないかと思っちゃったじゃん。 でも、お義  
兄さんの特濃せーし、すっごく美味しかったよ！ ごちそうさま…！  
…こんなに出たってことは、お義兄さんこの前した時から一回も抜いてなかつたでしょ？ 我慢す  
るのは身体に毒だよ？」

「もお、分かんないの？ そうゆうときにはたしを使ってよ。あたしのことは都合の  
いいセフレとかオナホくらいに思ってくれていいからさあ、溜まってきたらエッチ  
しよう？ ねっ？  
あたしたち、相性ばっちしなんだからさ、やらなきゃ損でしょ。もはやこの相性の  
良さはたくさんエッチしなさいって、神様が仕組んだレベルだよ」

「その返事は、納得してくれたってことでいいんだよね…！ あたしも溜まってきたら  
声かけるからつ…そんじゃねつ！」

## //トラック3

//(縁側でくつろいでいるとヒロインがやってくるシーン)

「あれ？ お義兄さん、今日もここに居たんだ。最近ずっと居る気がするんだけど…もしかしてお義兄さん、あたしにエッチなことされるの期待してる？」

「ふふっ、そつか…お義兄さんもすっかり性欲に正直になったね」

「いいよ…いつものやつしょっ？」

//(ヒロインがフェラするシーン)

「いつもみたいに寝ていいよ」

「じゃあ、脱がすね」

「うわ…っ、もうかなりおつきくなつてんじやん、ふふっ。すぐ気持ち良くしてあげるからねっ…！」

「ん、しょ…っ。こうして口でしてあげるのも何回目だろうね。もう何回もしてるからわかんなくなっちゃった」

「…ん、ちゅちゅちゅむう…っ、れろれろれろお…っ、ちゅふ、ちゅぱっ、  
ちゅむ、ちゅむう…っ、れろれろれろお…れろちゅ、ちゅむ、ちゅぱあ…っ、れろ  
れろお、れろれちゅっ、ちゅふ、ちゅむ、ちゅむう、ちゅれろお…っ、れろれ  
れろお、れるれろれろれろ、ちゅ、ちゅむ、ちゅふ、ちゅぱあ…れろっ、  
れろっ、れうれろれろ…ちゅれろお、れろれろお…っ、ふはあ…。  
ちょっと舐めただけなのにもうすっかりガチガチだねえ」

「…あむ…っ、ちゅふっ、ちゅむふふう…っ、ちゅふっ、ちゅふっ、ちゅむっ、  
じゅちゅつ…！ じゅちゅつ、じゅむつ、じゅむう、じゅむ、じゅむつ…ちゅふ、  
じゅふっ、じゅふ、じゅふう…っ、じゅふっ、じゅふ、じゅふつじゅふ…！  
じゅむう、じゅむつ、じゅつぶう…っ！」

「…ちゅむ、ちゅむ、ちゅむつ…ちゅろちゅろちゅろちゅろ、ちゅろちゅろ  
ちろちろ…ちろちろちゅろちろちろ、ちろちろちろちろちろちろ…。相変わらず  
先っぽ責めると情けない声出ちゃうんだねえ。もっとしちゃお～っ」

「…ん、れろれろお…っ、れろれろれろれろ、れろれるれろれろ、れろれろっ、  
れろれろれろれろお、れろれろれろれろれろお…っ、れろれるれろれろお…っ。  
姪のJKに口でされて情けない声出しながら、腰がくがくさせてるお義兄さんの姿を  
奥さんが見たらどう思うだろうね」

「今は奥さんのことは関係ないなんて言っちゃうんだ～、この前まであんなに奥さん  
思いだったのに…。信じらんな～。  
まあしようがないか。今はもう本能に負けて、すっかり現役JKの生口まんこの虜  
だもんね」

「…あむ…っ、ちゅふっ、ちゅむふふう…っ、ちゅふう、ちゅふっ、ちゅむうつ、  
じゅぢゅうううつ…！ じゅちゅつ、じゅむうう、ちゅむうう、じゅむつ、  
じゅむうつ…じゅふ、じゅふっ、じゅふ、じゅふう…っ！ じゅふうつ、じゅふっ、じゅふつじゅふう…！  
じゅむう、じゅむつ、じゅつむう…っ！」

「え～、もうイッちゃいそうなの～？ お義兄さんはやすぎ～。まだまだこれから  
なのに…。まあいいや…このままイかせてあげる」

//(フィニッシュシーン1)

「じゅふううつ、じゅむううつ！ ちゅむっじゅむっじゅむうううつ…！  
ちゅふつ、じゅむう、じゅむうう、じゅむうう…つ！ ちゅふうつ、じゅつぶつ  
じゅふつ、じゅつぶつじゅつぶつうつ！ じゅむつ、じゅむうう、じゅむうう、  
じゅむうううう…つ！」

「ちゅじゅつ、じゅつ、じゅむうつ、うんつ…出ひて…つ！ んじゅつ、じゅむうつ、じゅむつ…！ こ  
のままちょーらい…？」

「じゅふううつ、じゅむううつ！ ちゅむっじゅむっじゅむうううつ…！  
ちゅふううつ、じゅむう、じゅむうう、じゅむうう…つ！ ちゅふうつ、  
ちゅふつ、じゅむうう！ じゅつぶつじゅふつ、じゅつぶつじゅつぶつうつ！  
じゅむつ、じゅむうう、じゅむうう、じゅむううう…つ！」

「んんつ、んうつ、んつ、んんう、ん～～～…つ！」

「こく、こく、こくつ、こく…つ、ん、んう、んぐつ…」

//(満足できてないヒロインがお掃除フェラしてからそのままなし崩し的に  
セックスするシーン 騎乗位、女性優位)

「つはあ…！ 今日もいっぱい出たね…つ。  
でも～、お義兄さんすぐイっちゃったから  
…あたし、まだ満足できないんだよねえ…」

「れろつ、れろつ、れろつ、れろつ、れろ…つ、れろれろれろお…れろつ、  
れろつ、れろおつ、れろおつ…！  
何驚いた顔してんの？ エッチするためにちんぽ綺麗にしてるんだよ。せーしついた  
ままじゃ、いろいろまずいからさ。まだまだ出来るでしょ？」

「まさかお義兄さん、今日もフェラだけで済むと思ってたの？ いつもお義兄さん  
ばっかり気持ち良くなってんじゃん。さすがのあたしももう限界なんですけど」

「口ではそう言ってるけど、ちんぽはもうすっかり勃起して、まんこの中  
入りたいって言ってるよ？」

「ねえ？ お義兄さんお願…久しぶりにエッチしようよお…つ、奥さんもう少しで  
こっち来ちゃうんでしょ？ これで最後にするからあ…」

「やったあ…つ、ありがとっ…！ それじゃっ、この間みたいにあたしが上になって  
入れちゃうね…！」

「…あつ、その前にゴム着けなきや」

「こうしてゴム着けてあげるのもちよつと久しぶりだね。  
…よし、それじゃ、入れちゃうよお…つ」

「はあああ…つ、んつ、はあつ、久しぶりのちんぽおつ…あつつい…つ！  
久しぶりだからかなあ、まんこがちんぽ離したくない～って、きゅうきゅう  
締めつけやってる…。しばらく出来なかった分、めっちゃ激しくするから  
覚悟しててよね」

「あつ、はあ、はあ、あ、あつ、ああ、あん…つ、ああつ、はあ、ああ、ああん…つ、 やつ、やあ、あつ、  
ああ、あつあつ、ああつ…！ あつあうつ、んあつあつ、あつ

あつあ…つ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつん！」

「きもちい…つ、あはああつ、はあつ、きもちい…よお…つ！ あつ、はあつ、はあつ、あつあつ、  
ああつ、あんつ…あはあつ…！」

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ…！ あつあつ！ はあつ、ああつ、  
あつ、あつあつんあ！ あつあうつ、んあつあつ、あつあつ…つ！ はあつ！ あつ！  
はあつ、あつ！ ああうつ、あつあつ！ はあつ、はあん…つ！  
あんんつ、んあつ、あう、あう、あつあつ、あつあつ、あん…つ！  
やっぱお義兄さんのちんぽさいこおお…つ」

「あ、あたしのまんこにいあつ、ひやあつ…！ ぴったりはまつて、相性ばっちしい… つ、はあつ、  
ひやあつ、ああつ、あん…つ！ 腰止まらああんつ、なあいい…つ」

「まだまだ全然足りない…つ、あつ、ひや、はあつ、ああつ！ あたしのことおおんつ、あん、ん  
あつ！ もっと気持ち良くなつて…？」

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ…！ あつあつ！ はあつ、ああつ、あつ、あつあつん！  
あつあうつ、んあつあつ、あつあつ…つ！ はあつ！ あつ！ はあつ、あつ！ ああうつ、あつ  
あつ！ はあつ、はあん…つ！ んんつ、んあつ、あつあつ、あん…つ！  
ふふつ…お義兄さんすっごく気持ちよさそうな顔してる…ねえ？ 奥さんとどっちが  
気持ちい？」

「ふ～ん、はぐらかしちゃうんだ～」

「そんなことするなら…いかせてあげないよ？」

「ほら、はやく素直になつちゃいなよ。ちんぽもイきたそうに震えてるよ？」

「それだけじゃダメ…つ、ちゃんと言って？ 奥さんとするエッチよりも恋人でも  
何でもないあたしとするエッチの方が気持ちいいって」

「はやくう…つ！」

「ふふつ、よく出来ました…つ。約束通り、たつぱりイかせてあげる…！」

//(フィニッシュシーン2)

「はあつ、あつ、あつ、あうつ、あつあつ…！ あつあつ！ はあつ、ああつ、  
あつ、あつあつん！ あつあうつ、んあつあつ、あつあつ…つ！ はあつ！  
あつ！ はあつ、あつ！ ああうつ、あつあつ！ はあつ、はあん…つ！ んんつ、  
んあつ、あつあつ、あん…つ！」

「はあつ、ひやつ、ああつ、ちんぽの先ふくーって中でおつきくなつたらああんつ…！ イ、イッちゃう  
よお…つ！ おにいさんもイッちゃいそうなんですよ？ イ、イニ…？ 一緒にイニつ？」

「あつ、あつ、はあつ、ん、んあつ、あうつ、あつあつ。あつ、ああつ、あうつ、  
あつ、ああつ…！ はあ、はあつ、ん、んつ、あんつ、あつ、ああつ、あつ  
あう…つ！ あつ、あつあつ、ああつ、あうつ、あ、あつ、ああんつ、あつ  
あつ…！」

「はあ、ああつ、はあつ、あんつ、あつ、んつ、んつ、ああつ…！ あ、あたひもおつ…ああつ、はあつ、  
はあつ！ あつあつあつ！ いくつ、いくいくいくいく…つ！  
イッちゃあああ…つ！ ああつ、ああつ、ああつ！ あつ、あつ、ああああつ…  
いく…つ！！」

「はああああつ、はあつ、はあ、ああつ…んう、んんんん～～～つ…！」

「はあ、はあ、はあ、はあつ、はあ…つ、ゴム貫通しちゃうんじゃないからい  
勢いよくせーしてる…つ、あたしも初めて中イキしちゃった…お義兄さんのちんぽ、気持ちよ  
すぎ…あたしたちほんと相性ぴったしじゃん。  
…だから、これからは性欲発散のためにさ、エッチもしようよ。奥さんとするよりも  
気持ちいいんだから、いいよね？」

「これで最後にするってのは嘘に決まってんじゃん！ …そうゆうことだからさ、  
お義兄さん、またしようね…！」

## //トラック4

//(縁側でくつろいでいると当たり前のようにヒロインが現れ、誘惑してくるシーン)

「やっほー、お義兄さん。隣座っていい？」

「ありがとっ」

「はあ...。

今日は一段とあついね～」

「暑けりや来なきやいいのって...お義兄さん、それは違うよ～」

「あたしは暑くても毎日来るよ？ そこにお義兄さんが居る限り...。お義兄さんに会いたいからね」

「ちゅつ...。

今のお義兄さんなら、あたしがどうして会いたかったか分かるでしょ？」

「そう、正解...。

ねえ？ 奥さんって確か、昨日こっちに来たんだよね？ 一緒に居ないってことは今は居ないの？」

「へえ、買い物に行ってるんだ～、ふふつ...。

じゃあさ、サクッとやっちゃう？ 気持ちいいこと...」

「もお、分かってるくせに...いいでしょ、お義兄さんと一緒に居れる時間も残り少なくなってきたんだし、少しでもやっておきたいじゃん？」

「奥さんさっき行つたばっかなんでしょ？ あたしのテクでお義兄さんなんてあつという間にイカせちゃうからさ。絶対奥さんが帰つてくる前には終わるよ」

「今まで20分以上耐えたことある？ ないでしょ？ はい、じゃあ決まりね」

//(ヒロインとセックスするシーン 騎乗位 女性優位)

「今日はどの体位でする？」

「騎乗位ね、おっけー。お義兄さんほんと騎乗位好きだね。あたしも好きだからいいけど。じゃ、お義兄さん、そこに寝て」

「んっ、しょ...」

「お義兄さんもうこんなにおつきくなつてんじやん。なんだかんだ言って期待してたんだ...」

「お義兄さんともう何回もエッチしちゃってるからこうやってゴム着けてあげるのも当たり前になつちやつたね。  
...ゴム着けたから入れちゃうよ」

「はああああ...つ、ああんつ...」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！」

あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ…！  
はあつ、はあつ、んつ、んう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、  
あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、はあつ、ああんつ、  
はあん…つ！」

「ねえ？ おにいさ、ああんん…つ、あたしたちエッチするたび、ひや、はあ、ああつ、んう…つ、相性良くなってると思わない？」

「お互いの気持ちいとこが分かってるからかなあ…。奥さんとじゃこんな気持ち良さを求めたエッチ出来ないでしょ？」

//(フィニッシュシーン1)

「あつあつ、はあつ、ああつ、あうつ、あつ、あんつ！ んつ、んあつ、あつ、  
ああつ、はあつ、はあつ、んつ、んう…つ！ あつ、あうつ、あうつ、んあつ、 ああつ、あつあつ！  
はあつ、はあつ…。  
えつ、もうイッちゃいそうなの？ さすがに早すぎない？ ふふつ、過去最速じゃん。あたしのま  
んこがそんだけ気持ちいってことだからいいけど」

「あつあつ、んんうつ！ はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！  
あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ…！ あん、あつああつ、  
あつああつ…！ はあつ、はあつ、んつ、んう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、  
あうつ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！ はあつ、ああつ、はあつ、  
ああんつ、はあん…つ！  
いいよ、好きに出して…つ」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！ あうつ、あつあつ、ああつ  
あつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ…！ はあつ、はあつ、んつ、んう…つ！ んんつ、  
あつ、あうつ、あうつ、んあつ、あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

//射精音

「はあ、はあ、はあ…今日もたくさん出したね～。お義兄さんは満足そうだけど、  
あたしはまだ満足できていないよ…？」

「当然でしょ。お義兄さんあんなに早くイッちゃうんだもん…でもそのお陰で  
もう一回できるね！」

「何ビビってんの？ まだ時間余裕あるでしょ？ ちゃんとあたしも満足させてよ。  
…それに、満足できてないのはお義兄さんも一緒だと思うけど？」

「たった今こんなに出したとは思えないくらいもうギンギンだよ？ 迷ってる時間  
ないし、もうやっちゃうよ。…って、もうゴムないじゃん…つ。う～ん…もうこの際  
生でいいか…！ あたし今日だいじよぶな日だし、せーし外に出せば完璧でしょ」

「もお、このタイミングでためらわぬでよね。こうゆうのは勢いが大事なの。  
早くしないと奥さん帰ってきちゃうんだから、サクッとやっちゃお…つ！」

//(満足できてないヒロインと二回目のセックス 騎乗位 途中から対面座位)

「はあああ…つ、生だと全然違う…つ！ まだ入れただけなのに…  
こんな気持ちいの、初めて…つ」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！  
あうつ、あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ…！ はあつ、はあつ、  
んつ、んう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、  
あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

お義兄さんの熱いの直接感じるよお…つ」

「はあ、はあつ、ああ、生でエッチするのってこんなに気持ちいいんだあん…つ、  
はあ、あ、あつ、ああつ…おにいさんとだから尚更気持ち良くてあたし、  
もう戻れないかもお…つ」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！  
あうつ、あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ…！ はあつ、はあつ、  
んつ、んうう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、  
あつあつ！ ああつ、あつあつ！  
生でもあたしたち相性最高だねえ…」

「ん～、何の音～？」

「ひやつ…！ おつ、お義兄さん！？ 急に慌ててどうしたの…？」

「えつ！？ 奥さん帰ってきたって…や、やばつ…！ 早くしなきゃ！ ほら、  
お義兄さんも動いて…！」

「はあつ、ひや、ああ、やつ、やあ…つ！ 急に体勢変えちゃつ…だめつ…」

「お義兄さんてば大胆だね…急に抱き寄せられて、ちょっとドキドキしちゃつた…つ」

「ううん、お義兄さんが動きやすいならこのまでいいよ。たくさん動いて…？」

「あつあつ、んんうつ、はあつ、ああつ、はあつ、あうつ、あつ、あんつ！  
あうつ、あつあつ、ああつあつ！ んつ、んあつ、うあつ、あん、あつああつ…！ はあつ、はあつ、  
んつ、んうう…つ！ んんつ、あつ、あうつ、あうつ、んあつ、  
あつあつ！ ああつ、あつあつ！」

「はああんつ、あつ、ああつ！ 抱き合ったまましてると、ちんぽがお腹の裏側  
ごりごり当たってえ、ああつ、はああつ！ 気持ちい、気持ちいよお…つ！  
はあつ、はあつ、あつ、あつ！ こ、声止まんなつ、ああつ！ はあつ、んつ、  
あつあつ！」

「こんな気持ちいのにつ、はあつ、あつ、あつ…声、抑えられるわけつ、あああつ、  
あつあつ…！ ないよお…つ！ おにいさんあん…つ、口、くち…ちゅーで塞いで？ はあつ、  
ああつ」

「はあつ！ あ…つ、んちゅ、んん…つ！ ちゅつ、ちゅう、んつんつ！  
んちゅ、ちゅつ、ん、んつ、あん…つ！ んつ、ちゅ、ちゅう、んう…ん、んつ、  
ちゅちゅう…んつ、んうつ、んつんつ…！ んはあつ、んちゅつ、んつ、  
んん…つ！」

「はあつ！ あ…つ、んちゅ、んん…つ！ れろちゅつ、れろれろお、ちゅう、んつ んつ！ ん  
ちゅ、れろれちゅつ、れろれろ、んつ、んうつ、あん…つ！ んつんつ、  
れろれちゅ、れろちゅう、れろれろれるれうう、んう…ん、んつ、れろれちゅ  
ちゅう…んつ、んうつ、れろちゅう、れれろちゅつ、れろれちゅううう、  
んつんつ…！」

//(フィニッシュシーン2)

「イッちゃう…？ いいよ…あたしもイッちゃいそうだからっ…一緒にイニ…つ？」

「はあつ！ あ…つ、んちゅ、れろれちゅつ、れろちゅつ、ちゅう、んん…つ！  
れろちゅつ、れろちゅ！ れろれろお、ちゅう、んつんつ！ んちゅつ、  
れろれちゅつ、れろちゅ、ちゅれろお、れろれろお、はあ、あんんつ、んうつ、

あん…っ！ んつんっ、れろれちゅ、れろちゅう、れろれろれるれうう、んう  
…ん、んつ、れろれちゅちゅう……んつ、んうつ、れろちゅう、れれろちゅつ、  
れろれちゅううう、んつんつ……！」

「はあ、あんつ、んちゅつ、ちゅ、んうつ、んつ…！ ちゅ、ちゅつ！ んんうつ！  
んんんんんん～～～…………！！」

「はあ、はあつ、はあつ、はあああ…つ。

「あ、あつたかあい…中に出されるってこんな感じなんだあ…っ、お義兄さんのせーしで  
中いっぱい…っ」

「…たっぷり中に出されちゃったわけだけど、お義兄さんにはどう責任取って  
もらおつかな～」

「そうだ…奥さんと別れてあたしと結婚するとかどお？」

「うううそ、冗談に決まってんじゃん。心配しなくてもそんな簡単に赤ちゃんなんて  
出来ないでしょ…最悪ピル飲むし。  
そんなことより早く服着て片付けないと、ほんとに奥さんと別れることにな  
なっちゃうよ？ ふふつ…！」

「てかさ、さっきのめっちゃドキドキしたね？ あたし、あんなスリルのあるエッチ  
したの初めてでいつもよりちょっと興奮しちゃった…！  
なんか、今日のことしばらく忘れらんないかも…っ」

## //トラック5

(エピローグ)

//(帰るまでの時間を縁側で過ごしているとヒロインがやってくるシーン)

「おにいさん…っ！」

「今日であっちに帰るんでしょう？  
今までいろいろあったけどめっちゃ楽しかったね♪」

「今度はあたしがそっち遊びに行っちゃおつかな～？」

「もお、お義兄さん何言ってんの？ 普通にそっちに遊びに行くだけだよ～、  
そっち楽しそうだし。  
あー、お義兄さん、エッチなこと期待しちゃった～？ ふふっ…」

「最後の最後にやっとく？」

「うそそ、冗談だってば、ごめんごめん。  
あ、でも、楽しかったのはほんとだよ。だから次帰ってくるのも楽しみにしてる」

「次はいつ帰ってくるの？ 年末？ 来年の夏？」

「ふ～ん、まだ分かんないんだ。まあ、それでも、帰ってきたらまたおまんこ使わせて  
あげるからさ、使いたくなったら帰ってきなよ…！ ふふっ♪」

「あっ、もう行くんだね、おっけー。  
じゃーねー、お義兄さんっ…！ またこっち遊びに来てねー♪」